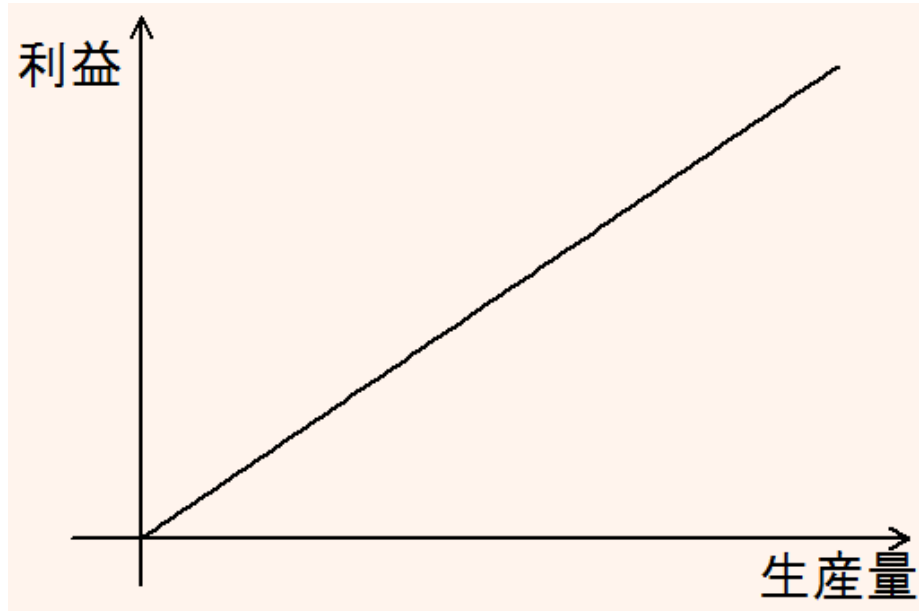


# 非線形最適化問題

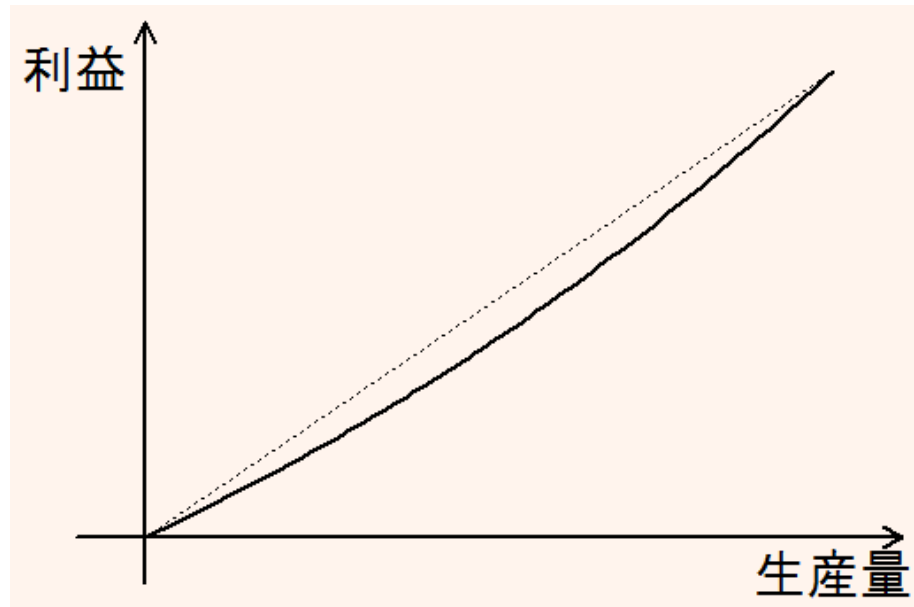
# 非線形最適化問題

生産量と利益見込み(線形関係)



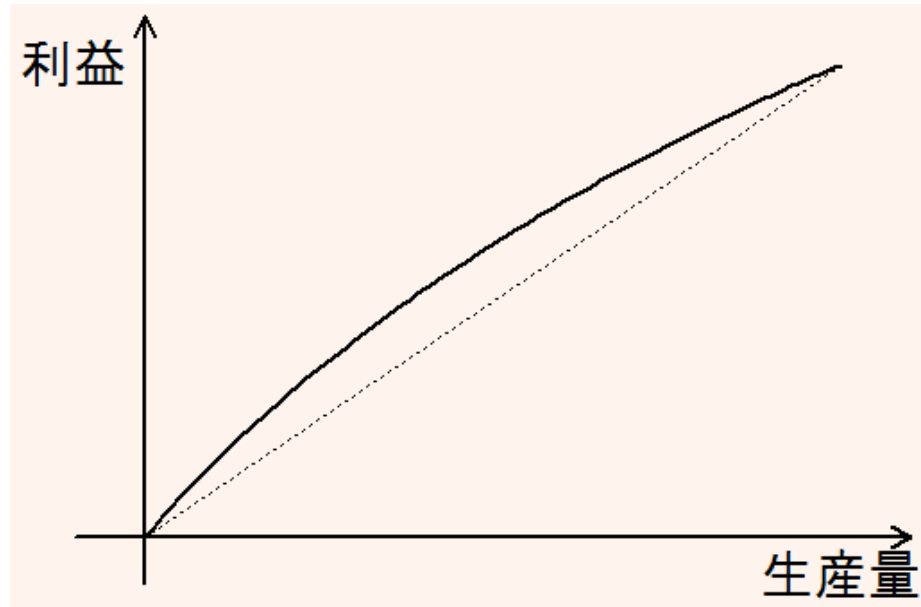
# 非線形最適化問題

## 生産量と利益見込み(非線形関係)



# 非線形最適化問題

## 生産量と利益見込み(非線形関係)



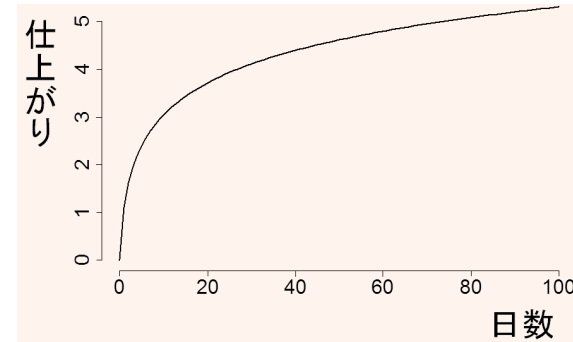
# 非線形最適化問題

## 制約のある非線形最適化問題

- 工程  $i$  ( $i = 1, 2, \dots, n$ ) に  $x$ (日) かけた時の仕上がりの程度

$$\log(a_i x + 1) \quad a_i > 0$$

- 各工程は最低  $t_i (> 0)$  日かかる
- 全工程を  $T$  日以内に終わらせなければならない
- 仕上がりの和を最大にするには、各工程に何日かければよいか



# 非線形最適化問題

## 制約のある非線形最適化問題

- 工程  $i$  に  $x_i$  日かける
- 目的関数  $z$  は各工程の仕上がり程度の総和

$$z = \sum_{i=1}^n \log(a_i x_i + 1)$$

# 非線形最適化問題

## 制約のある非線形最適化問題

- 工程  $i$  には最低  $t_i$  (日) かかる

$$x_i \geq t_i \quad (i = 1, 2, \dots, n)$$

- 全工程を  $T$  日以内に終わらせる

$$\sum_{i=1}^n x_i \leq T$$

# 非線形最適化問題

## 制約のある非線形最適化問題

$$\text{最大化 } z = \sum_{i=1}^n \log(a_i x_i + 1)$$

$$\text{制約条件 } x_i \geq t_i \quad (i = 1, 2, \dots, n)$$

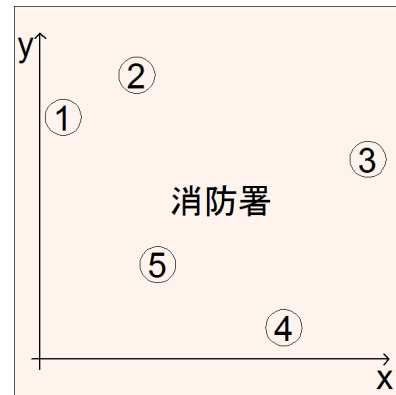
$$\sum_{i=1}^n x_i \leq T$$



# 非線形最適化問題

## 制約のない非線形最適化問題

- 5つの人口密集地区  
(1, 2, 3, 4, 5)
- 消防署はこれら5つの地区への直線距離の和が最小になる位置に設置
- 消防署を設置すべき位置を求めよ



地区	$x$	$y$
1	1	12
2	4	14
3	15	10
4	11	2
5	5	5

# 非線形最適化問題

## 制約のない非線形最適化問題

- 消防署の位置の座標を  $(x, y)$
- 地区  $i$  ( $i = 1, 2, 3, 4, 5$ ) の位置の座標  $(x_i, y_i)$
- 消防署と地区  $i$  の直線距離は,

$$\sqrt{(x - x_i)^2 + (y - y_i)^2}$$

# 非線形最適化問題

## 制約のない非線形最適化問題

- 消防署の位置の座標を  $(x, y)$
- 地区  $i$  ( $i = 1, 2, 3, 4, 5$ ) の位置の座標を  $(x_i, y_i)$
- 目的関数  $z$  は消防署と各地区の直線距離の和で

$$z = \sum_{i=1}^5 \sqrt{(x - x_i)^2 + (y - y_i)^2}$$

- $z$  を最小化する  $x, y$  を求める問題

# 非線形最適化問題

## 非線形最適化問題の一般形

最小化  $f(\mathbf{x})$

制約  $g_i(\mathbf{x}) = 0 \quad (i = 1, 2, \dots, m)$

$h_j(\mathbf{x}) \leq 0 \quad (j = 1, 2, \dots, l)$

- $\mathbf{x}$  は  $n$  変数のベクトル  $[x_1, x_2, \dots, x_n]^T$

# 非線形最適化問題

## 今回の前提

- 制約のない非線形最適化問題の最適化
- 問題は最小化問題
- 目的関数  $f(x)$  は考慮すべき  $x$  の領域において2階微分可能
- 2階微分は連続関数

# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

- 任意の  $x$  に対して  $f(x^*) \leq f(x)$  を満たす  $x^*$   
… 関数  $f$  の最小化問題の大域最適解
- $x^*$  の周囲の  $x$  に対して  $f(x^*) \leq f(x)$  を満たす  $x^*$   
… 関数  $f$  の最小化問題の局所最適解
- 大域最適解は局所最適解であるが、局所最適解は一般には大域最適解とはならない

# 非線形最適化問題

- 1変数関数  $f(x)$
- 関数  $f(x)$  の増減を調べるには、関数の変化率を表す (1階) 導関数 (微分)

$$f'(x) = \frac{df(x)}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f(x + \Delta x) - f(x)}{\Delta x}$$

- 導関数の変化率を表す 2階導関数

$$f''(x) = \frac{d^2 f(x)}{dx^2} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{f'(x + \Delta x) - f'(x)}{\Delta x}$$

# 非線形最適化問題

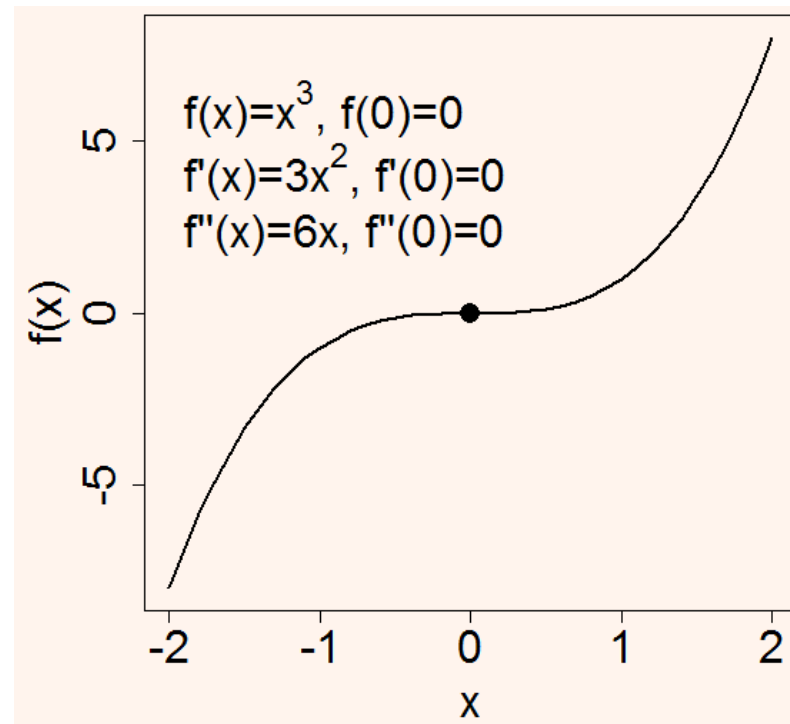
## 最適性の条件

- $f'(x)$  は  $x$  における  $f(x)$  の変化率 (接線の傾き)
- $x$  において,  $f'(x)$  が正なら  $x$  において  $f(x)$  は増加
- $f'(x)$  が負なら  $x$  において  $f(x)$  は減少
- $x$  において  $f(x)$  が極小値あるいは極大値  
→  $x$  において  $f'(x) = 0$
- $f'(x) = 0$  なら必ずしも極小値あるいは極大値  
になっている訳ではない



# 非線形最適化問題

## 最適性の条件



# 非線形最適化問題

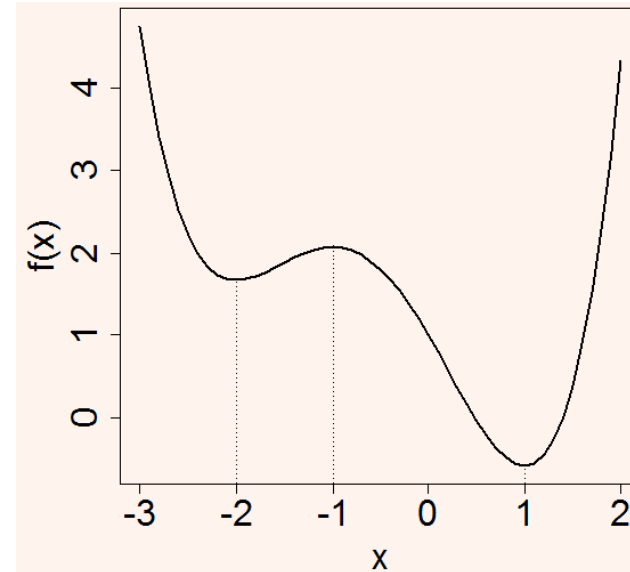
## 最適性の条件

- $f'(x) = 0$  のとき,  $x$  において  $f(x)$  が極小値であるか極大値であるかの判別
- $f''(x)$  が正なら  $f(x)$  は下に凸な曲線 (∪) … 極小値
- $f''(x)$  が負なら  $f(x)$  は上に凸な曲線 (∩) … 極大値
- $f''(x)$  が 0 の場合, これだけからは最適性の判定はできない

# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

$$f(x) = \frac{1}{4}x^4 + \frac{2}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 - 2x + 1$$



# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

$$f(x) = \frac{1}{4}x^4 + \frac{2}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 - 2x + 1$$

$$f'(x) = x^3 + 2x^2 - x - 2 = (x + 2)(x + 1)(x - 1)$$

$$\bullet x = -2, -1, 1 \rightarrow f'(x) = 0$$

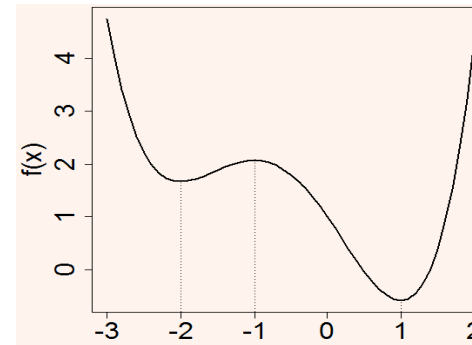
$$f''(x) = 3x^2 + 4x - 1$$

$$\bullet x = \frac{-2 \pm \sqrt{7}}{3} \rightarrow f''(x) = 0$$

# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

$$f(x) = \frac{1}{4}x^4 + \frac{2}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 - 2x + 1$$

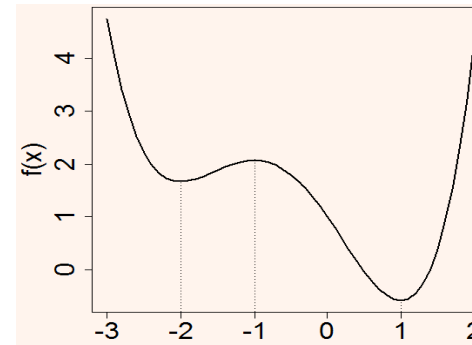


$x$	$< -2$	$-2$		$\frac{-2-\sqrt{7}}{3}$		$-1$		$\frac{-2+\sqrt{7}}{3}$		$1$	$> 1$
$f'(x)$	$-$	$0$	$+$	$+$	$+$	$0$	$-$	$-$	$-$	$0$	$+$
$f''(x)$	$+$	$+$	$+$	$0$	$-$	$-$	$-$	$0$	$+$	$+$	$+$
$f(x)$	$\cup$	$\frac{5}{3}$ 極小	$\cup$		$\cap$	$\frac{25}{12}$ 極大	$\cap$		$\cup$	$\frac{-7}{12}$ 極小	$\cup$

# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

$$f(x) = \frac{1}{4}x^4 + \frac{2}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 - 2x + 1$$

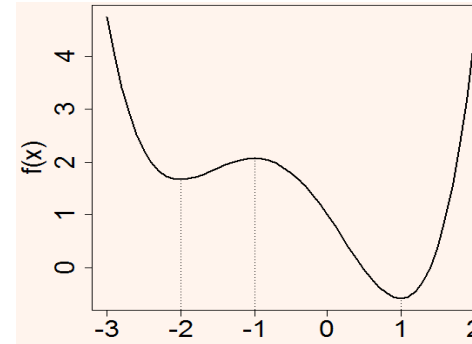


$x$	$< -2$	$-2$		$\frac{-2-\sqrt{7}}{3}$		$-1$		$\frac{-2+\sqrt{7}}{3}$		$1$	$> 1$
$f'(x)$	$-$	$0$	$+$	$+$	$+$	$0$	$-$	$-$	$-$	$0$	$+$
$f''(x)$	$+$	$+$	$+$	$0$	$-$	$-$	$-$	$0$	$+$	$+$	$+$
$f(x)$	$\cup$	$\frac{5}{3}$ 極小	$\cup$		$\cap$	$\frac{25}{12}$ 極大	$\cap$		$\cup$	$\frac{-7}{12}$ 極小	$\cup$

# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

$$f(x) = \frac{1}{4}x^4 + \frac{2}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 - 2x + 1$$



$x$	$< -2$	$-2$		$\frac{-2-\sqrt{7}}{3}$		$-1$		$\frac{-2+\sqrt{7}}{3}$		$1$	$> 1$
$f'(x)$	$-$	$0$	$+$	$+$	$+$	$0$	$-$	$-$	$-$	$0$	$+$
$f''(x)$	$+$	$+$	$+$	$0$	$-$	$-$	$-$	$0$	$+$	$+$	$+$
$f(x)$	$\cup$	$\frac{5}{3}$ 極小	$\cup$		$\cap$	$\frac{25}{12}$ 極大	$\cap$		$\cup$	$-\frac{7}{12}$ 最小	$\cup$

# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

- $n$  変数関数  $f(\mathbf{x})$  ( $\mathbf{x} = [x_1, x_2, \dots, x_n]^T$ ) の偏導関数

$$\frac{\partial f(\mathbf{x})}{\partial x_i} = \lim_{\Delta x_i \rightarrow 0} \frac{f(x_1, \dots, x_i + \Delta x_i, x_{i+1}, \dots, x_n) - f(x_1, \dots, x_i, x_{i+1}, \dots, x_n)}{\Delta x_i}$$

$$\frac{f(x_1, \dots, x_i + \Delta x_i, x_{i+1}, \dots, x_n) - f(x_1, \dots, x_i, x_{i+1}, \dots, x_n)}{\Delta x_i}$$

- $x_i$  のみを独立変数と見なして微分



# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

- 偏導関数  $\frac{\partial f(\mathbf{x})}{\partial x_i}$ ,  $f_{x_i}(\mathbf{x})$  を成分とする  $n$ 次元ベクトル

$$\nabla f(\mathbf{x}) = \begin{bmatrix} \frac{\partial f(\mathbf{x})}{\partial x_1} \\ \frac{\partial f(\mathbf{x})}{\partial x_2} \\ \vdots \\ \frac{\partial f(\mathbf{x})}{\partial x_n} \end{bmatrix}$$

勾配ベクトル

# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

- 2階の偏導関数  $\frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_i \partial x_j}$ ,  $f_{x_i x_j}(\mathbf{x})$  を成分とする  $n \times n$  行列

$$\nabla^2 f(\mathbf{x}) = \begin{bmatrix} \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_1^2} & \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_1 \partial x_2} & \cdots & \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_1 \partial x_n} \\ \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_2 \partial x_1} & \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_2^2} & \cdots & \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_2 \partial x_n} \\ & & \vdots & \\ \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_n \partial x_1} & \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_n \partial x_2} & \cdots & \frac{\partial^2 f(\mathbf{x})}{\partial x_n^2} \end{bmatrix}$$

ヘッセ行列

# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

$n \times n$  行列  $M$

- 任意の  $n$  次元ベクトル  $x$  に対して

$$x^T M x \geq 0$$

を満たすとき，行列  $M$  は半正定値

- 任意の実数  $x$  に対して

$$m x^2 \geq 0$$

を満たすとき，  $m \geq 0$

# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

$n \times n$  行列  $M$

- 零ベクトルを除く任意の  $n$  次元ベクトル  $x$  に対して

$$x^T M x > 0$$

を満たすとき、行列  $M$  は正定値

- 0 を除く任意の実数  $x$  に対して

$$m x^2 > 0$$

を満たすとき、 $m > 0$

# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

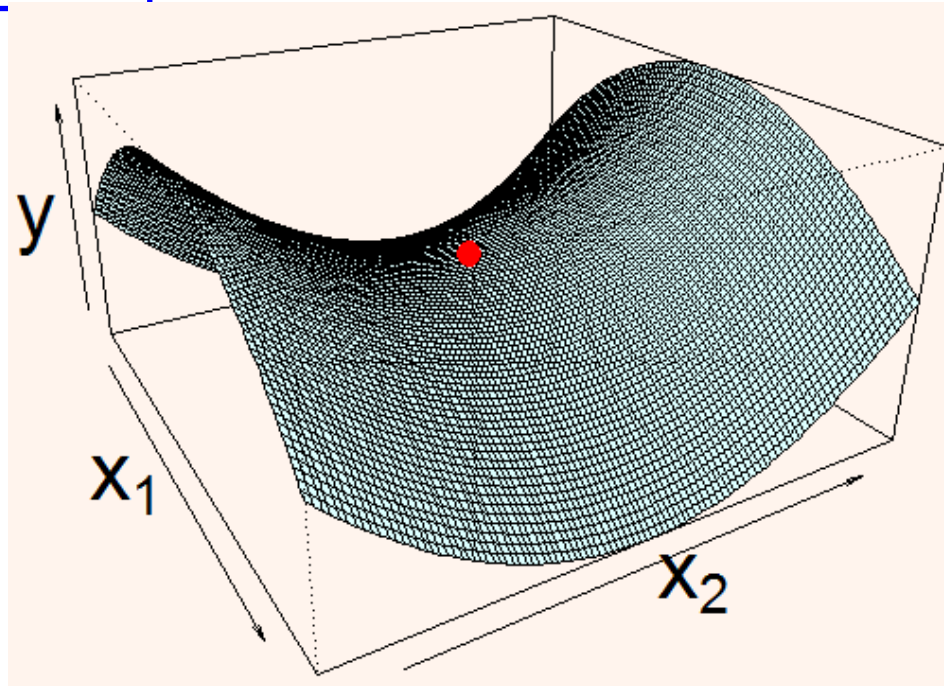
- $x$  が局所最適解であれば

$$\nabla f(\boldsymbol{x}) = \mathbf{0}$$

- $x$  が局所最適解であるための必要条件
  - … 1次の必要条件
- $\nabla f(\boldsymbol{x}) = \mathbf{0}$  を満たす  $x$ 
  - …  $f(\boldsymbol{x})$  の停留点

# 非線形最適化問題

## 最適性の条件



# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

- $\boldsymbol{x}$  が局所最適解であれば

$$\nabla f(\boldsymbol{x}) = \mathbf{0}$$

かつ

$\nabla^2 f(\boldsymbol{x})$  は半正定値

- $\boldsymbol{x}$  が局所最適解であるための必要条件  
… 2次の必要条件

# 非線形最適化問題

## 最適性の条件

$$\nabla f(\boldsymbol{x}) = \mathbf{0}$$

かつ

$\nabla^2 f(\boldsymbol{x})$  は正定値

であれば

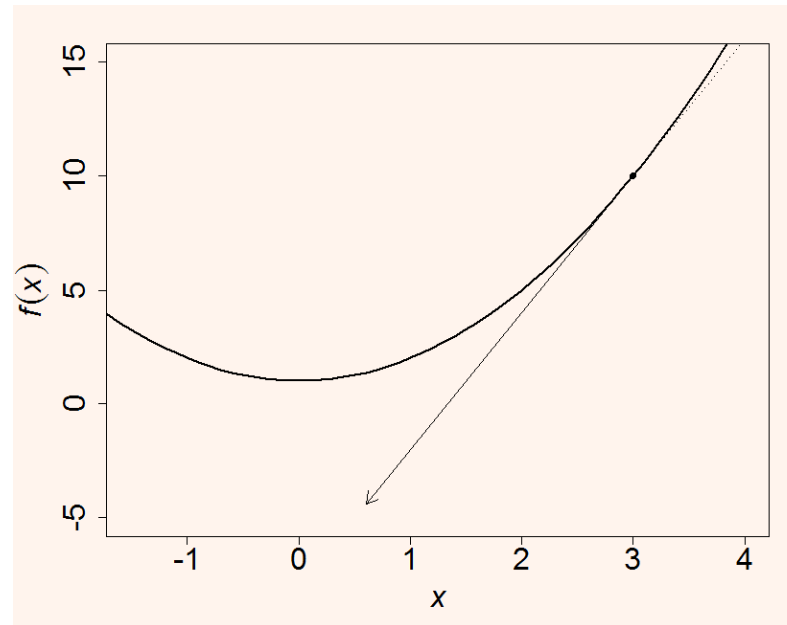
- $\boldsymbol{x}$  は局所最適解
- $\boldsymbol{x}$  が局所最適解であるための十分条件  
… 2次の十分条件



# 最急降下法

# 最急降下法

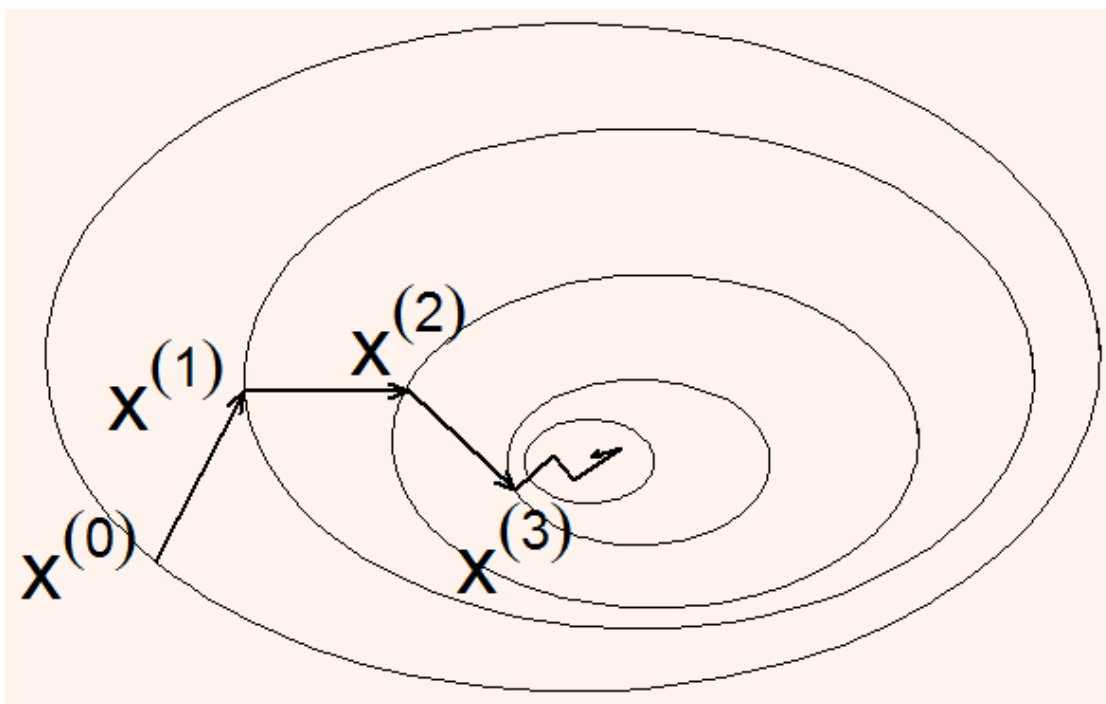
- $f'(x)$  … 関数  $f(x)$  の増加の割合
- $x_0$  において
  - $f'(x_0) > 0$   $x$  を減少
  - $f'(x_0) < 0$   $x$  を増加
- …  $f(x)$  を減少



## 最急降下法

- 勾配ベクトル  $\nabla f(\boldsymbol{x})$  の向き
  - … 関数  $f(\boldsymbol{x})$  を最も増加させる方向
- 勾配ベクトルの反対方向に  $\boldsymbol{x}$  を変化させる
  - …  $f(\boldsymbol{x})$  を減少
- これを繰り返すことにより局所最適解に到達
  - … 最急降下法

# 最急降下法



## 最急降下法

- $k$  回目の繰り返しにおいて  $\mathbf{x}^{(k)}$  であるとき

$$\mathbf{x}^{(k+1)} \leftarrow \mathbf{x}^{(k)} - \alpha^{(k)} \nabla f(\mathbf{x}^{(k)})$$

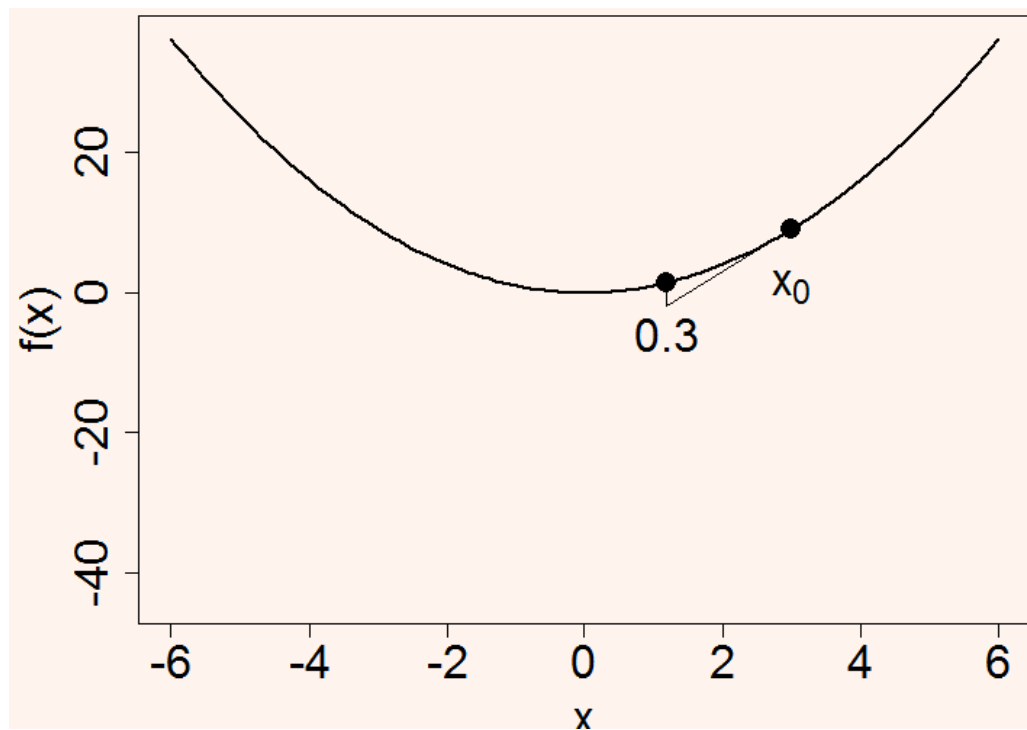
と更新

- $\alpha^{(k)}$  は正の数

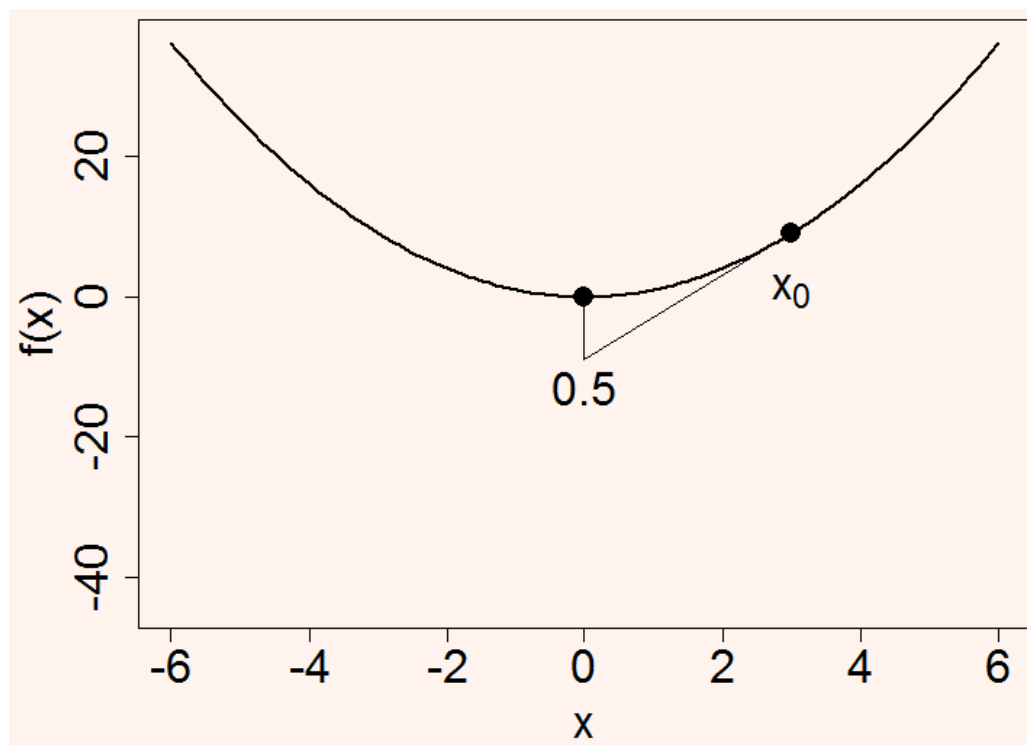
$$f(\mathbf{x}^{(k)} - \alpha^{(k)} \nabla f(\mathbf{x}^{(k)}))$$

が極小に(近く)なるように定める

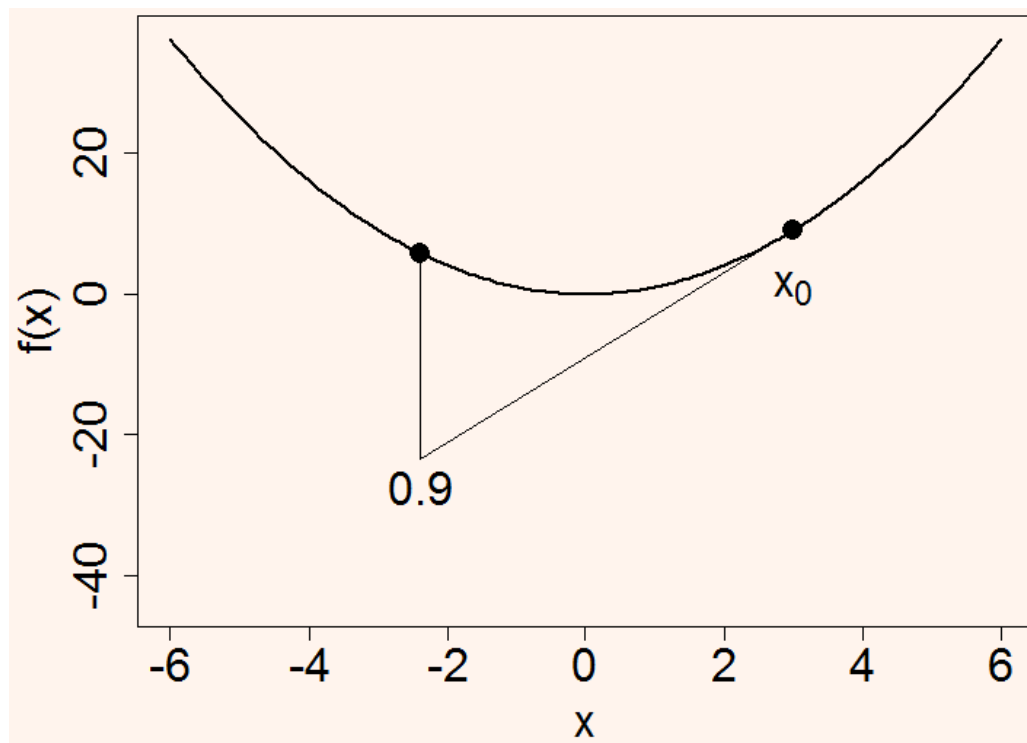
# 最急降下法



# 最急降下法

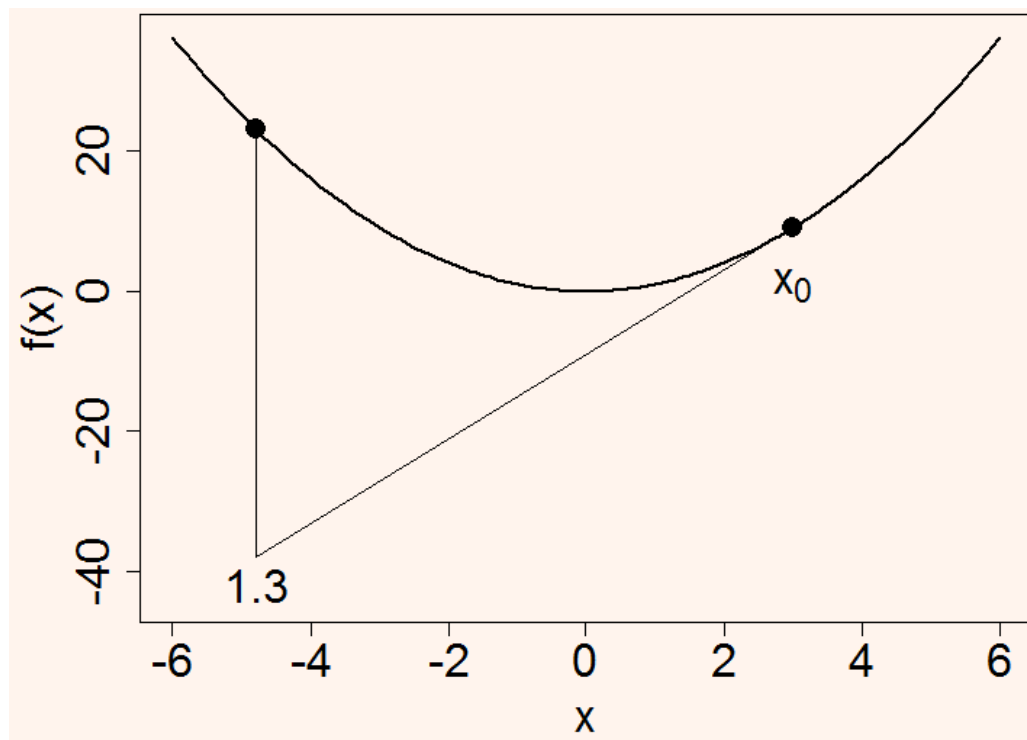


# 最急降下法





# 最急降下法



## 最急降下法

- (0)  $\boldsymbol{x}$  の適当な初期値  $\boldsymbol{x}^{(0)}$  を定める  $k \leftarrow 0$
- (1)  $\nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)}) = \mathbf{0}$  ならば  $\boldsymbol{x}^{(k)}$  を局所最適解として終了  
そうでなければ (2) へ
- (2)  $f(\boldsymbol{x}^{(k)} - \alpha^{(k)} \nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)}))$  が極小に (近く) なるような  $\alpha^{(k)}$  を求め

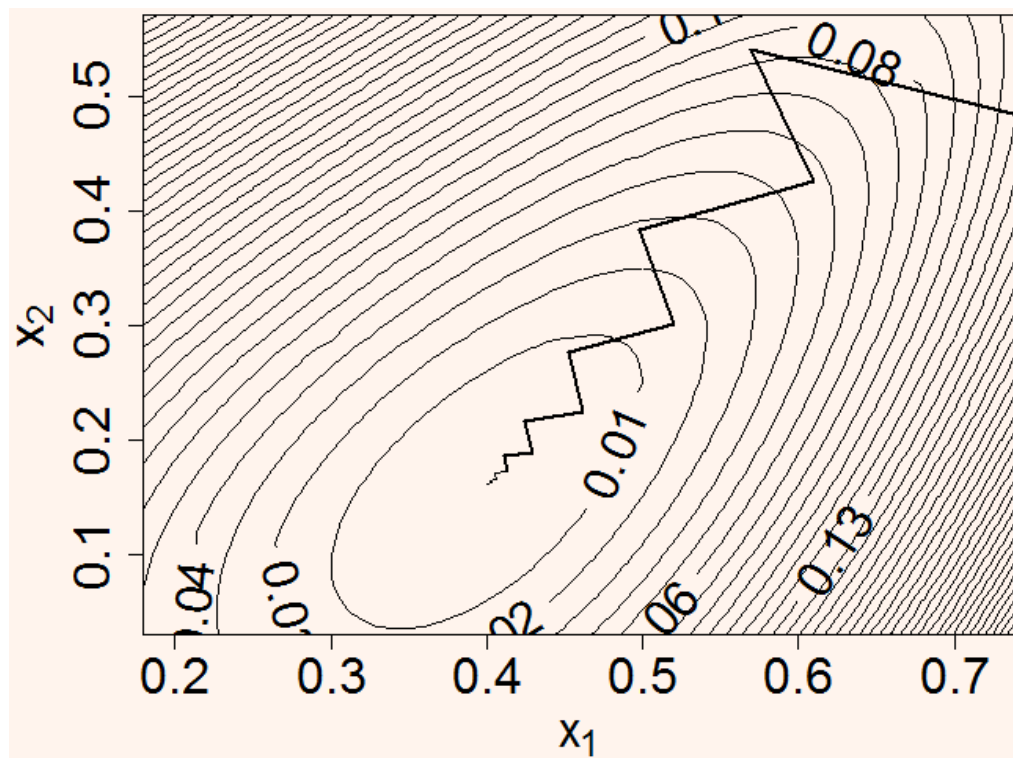
$$\boldsymbol{x}^{(k+1)} = \boldsymbol{x}^{(k)} - \alpha^{(k)} \nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)})$$

により  $\boldsymbol{x}^{(k)}$  を更新  $k \leftarrow k + 1$  として (1) へ

## 最急降下法

- 実際の終了基準  
小さな正の数  $\varepsilon$  に対して  
 $|\nabla f(\mathbf{x}^{(k)})| < \varepsilon$
- $\mathbf{x}$  の任意の初期値に対して局所最適解に収束する  
… 大域収束性
- 収束までに多数の繰り返し数を要することが多い

# 最急降下法



# ニュートン法

## ニュートン法

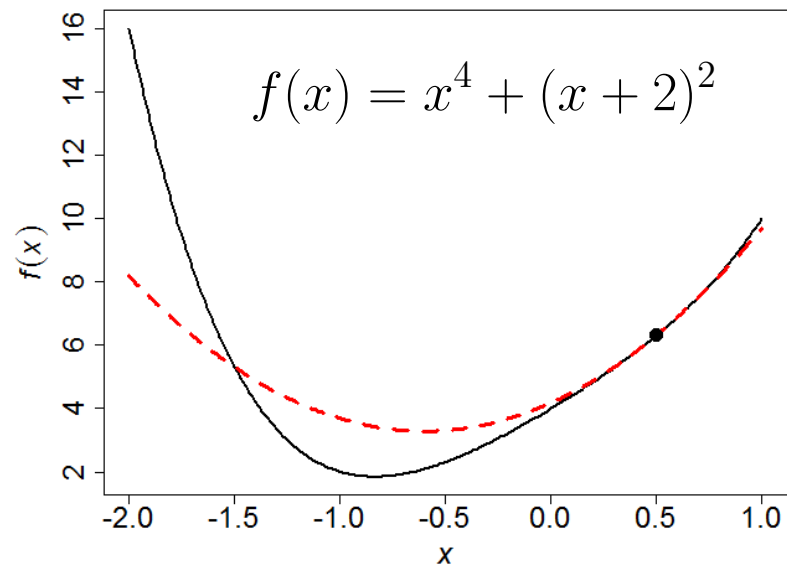
- 1変数関数  $f(x)$  は、定数  $x^{(k)}$  のまわりでテイラー展開により

$$f(x) = f(x^{(k)}) + f'(x^{(k)})(x - x^{(k)}) + \frac{1}{2!}f''(x^{(k)})(x - x^{(k)})^2 + \frac{1}{3!}f'''(x^{(k)})(x - x^{(k)})^3 + \dots$$

と近似できる

- 1次関数，2次関数で近似することが多い

# ニュートン法



$$g(x) = f(0.5) + f'(0.5)(x - 0.5) + \frac{1}{2}f''(0.5)(x - 0.5)^2$$

## ニュートン法

- $f(x)$  を  $x^{(k)}$  のまわりで2次関数 $g(x)$  と近似する

$$g(x) = f(x^{(k)}) + f'(x^{(k)})(x - x^{(k)}) \\ + \frac{1}{2}f''(x^{(k)})(x - x^{(k)})^2$$

- $f''(x^{(k)}) > 0$  と仮定すれば  
最適性の1次の必要条件

$$g'(x) = 0$$

を満たす  $x$  において  $g(x)$  は最小



## ニュートン法

- 最適解  $x$  は

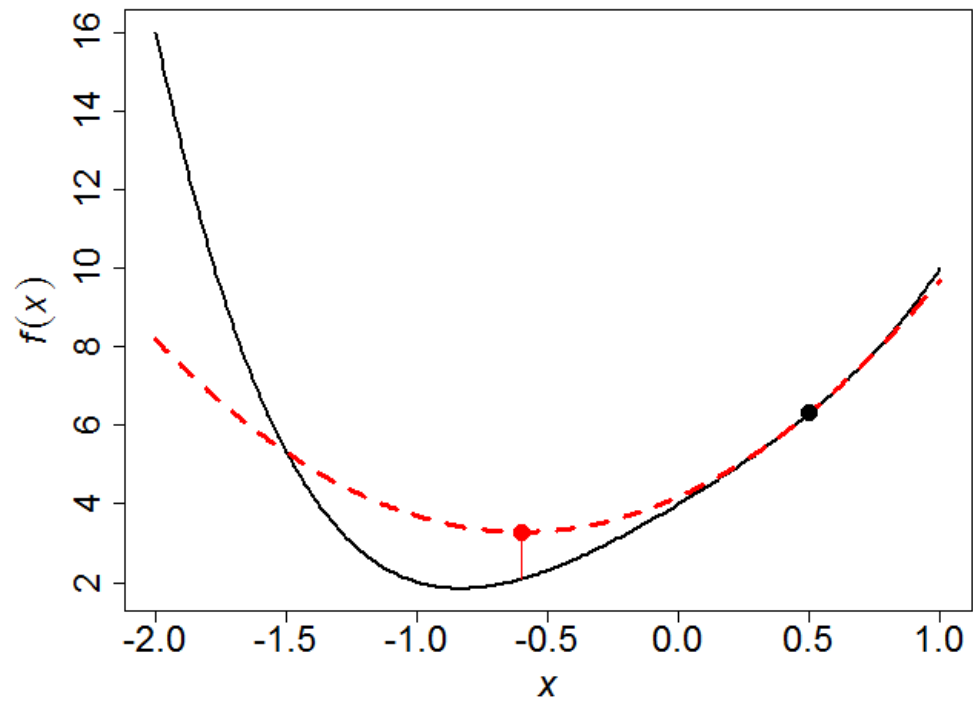
$$g'(x) = f'(x^{(k)}) + f''(x^{(k)})(x - x^{(k)}) = 0$$

を解いて

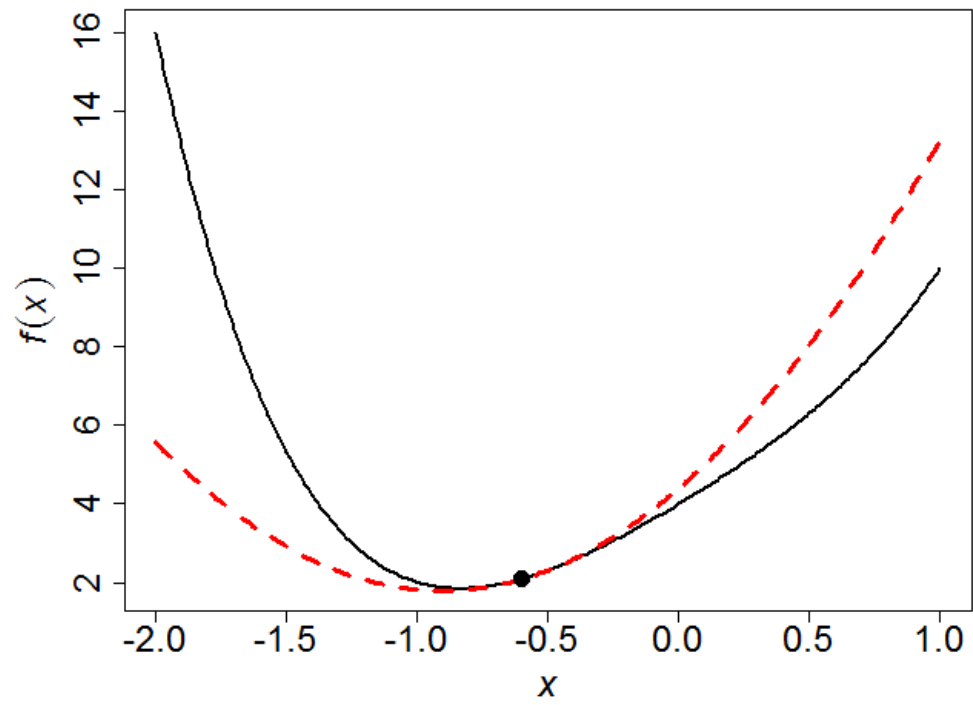
$$x = x^{(k)} - f'(x^{(k)})/f''(x^{(k)})$$

- $x$  は  $f(x)$  の近似式から導いたので近似解
- 更新を繰り返して  $f(x)$  の局所最適解に到達  
… ニュートン法

# ニュートン法



# ニュートン法



## ニュートン法

- 多変数関数  $f(\mathbf{x})$  は、定数ベクトル  $\mathbf{x}^{(k)}$  のまわりでテイラー展開により

$$\begin{aligned} f(\mathbf{x}) \simeq g(\mathbf{x}) = & f(\mathbf{x}^{(k)}) + \nabla f(\mathbf{x}^{(k)})^T (\mathbf{x} - \mathbf{x}^{(k)}) \\ & + \frac{1}{2} (\mathbf{x} - \mathbf{x}^{(k)})^T \nabla^2 f(\mathbf{x}^{(k)}) (\mathbf{x} - \mathbf{x}^{(k)}) \\ & + \dots \end{aligned}$$

と近似できる

## ニュートン法

- $f(\boldsymbol{x})$  を  $\boldsymbol{x}^{(k)}$  のまわりで 2次関数  $g(\boldsymbol{x})$  と近似する

$$g(\boldsymbol{x}) = f(\boldsymbol{x}^{(k)}) + \nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)})^T (\boldsymbol{x} - \boldsymbol{x}^{(k)}) \\ + \frac{1}{2} (\boldsymbol{x} - \boldsymbol{x}^{(k)})^T \nabla^2 f(\boldsymbol{x}^{(k)}) (\boldsymbol{x} - \boldsymbol{x}^{(k)})$$

- ヘッセ行列  $\nabla^2 f(\boldsymbol{x}^{(k)})$  が正定値と仮定すれば  
最適性の1次の必要条件

$$\nabla g(\boldsymbol{x}) = \mathbf{0}$$

を満たす  $\boldsymbol{x}$  において  $g(\boldsymbol{x})$  は最小

## ニュートン法

- 最適解  $\boldsymbol{x}$  は

$$\nabla g(\boldsymbol{x}) = \nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)}) + \nabla^2 f(\boldsymbol{x}^{(k)})(\boldsymbol{x} - \boldsymbol{x}^{(k)}) = \mathbf{0}$$

を解いて

$$\boldsymbol{x} = \boldsymbol{x}^{(k)} - \nabla^2 f(\boldsymbol{x}^{(k)})^{-1} \nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)})$$

- $\boldsymbol{x}$  は  $f(\boldsymbol{x})$  の近似式から導いたので近似解
- 更新を繰り返して  $f(\boldsymbol{x})$  の局所最適解に到達  
… ニュートン法

# ニュートン法

(0)  $\boldsymbol{x}$  の適当な初期値  $\boldsymbol{x}^{(0)}$  を定める  $k \leftarrow 0$

(1)  $\nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)}) = \mathbf{0}$  ならば  
 $\boldsymbol{x}^{(k)}$  を局所最適解として計算終了  
そうでなければ (2) へ

(2)  $\boldsymbol{x}^{(k+1)} \leftarrow \boldsymbol{x}^{(k)} - \nabla^2 f(\boldsymbol{x}^{(k)})^{-1} \nabla f(\boldsymbol{x}^{(k)})$   
により  $\boldsymbol{x}^{(k)}$  を更新  $k \leftarrow k + 1$  として, (1) へ

# ニュートン法

## 数値例

$$f(\mathbf{x}) = (x_1 - 0.4)^2 + (x_1^2 - x_2)^2$$

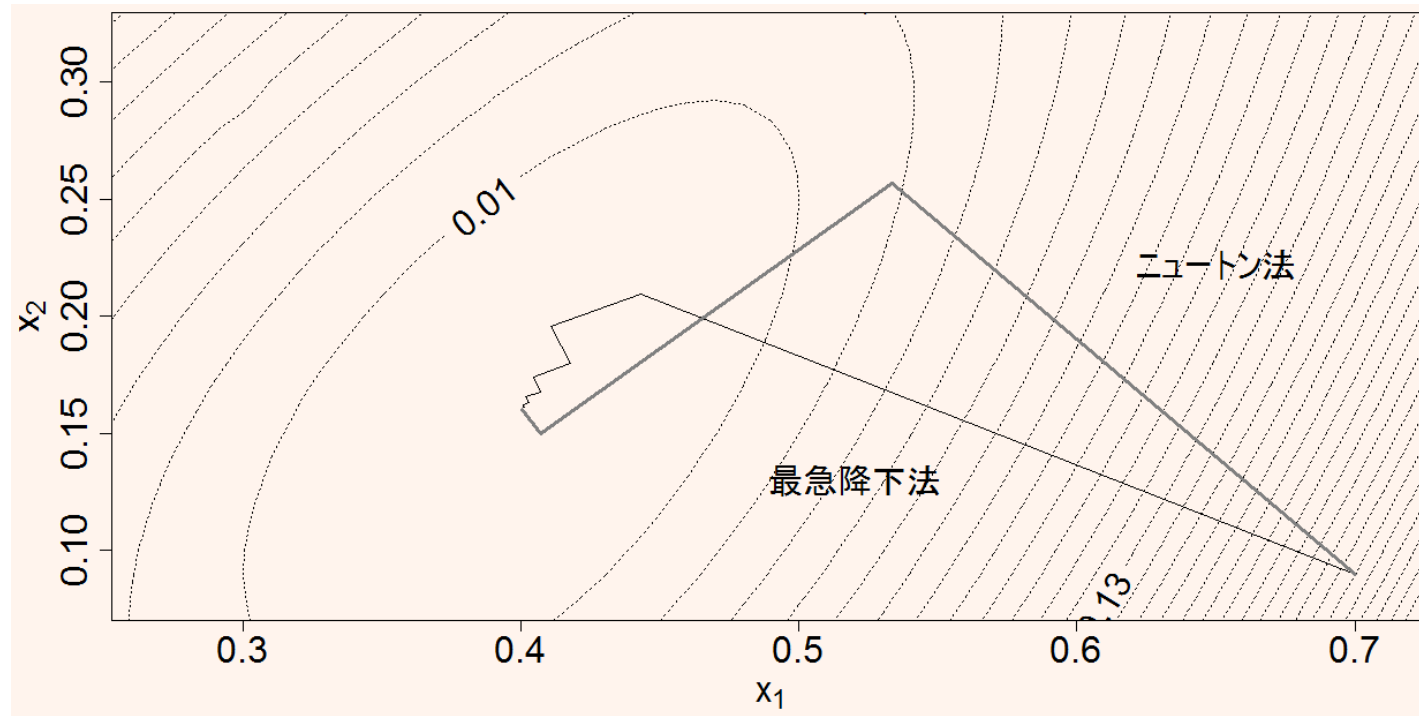
を最小化する  $\mathbf{x}$  を最急降下法とニュートン法を用いて求める

$$\nabla f(\mathbf{x}) = \begin{bmatrix} 2(x_1 - 0.4) + 4x_1(x_1^2 - x_2) \\ -2(x_1^2 - x_2) \end{bmatrix},$$

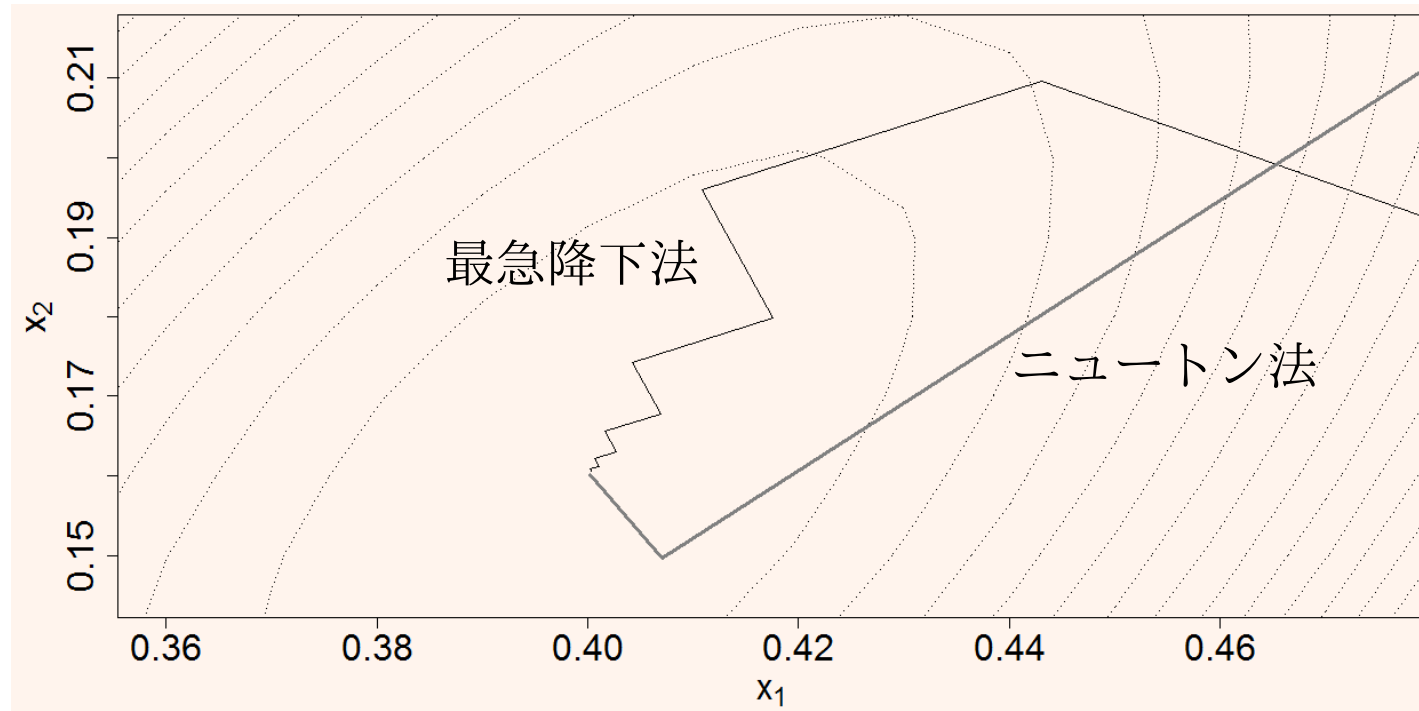
$$\nabla^2 f(\mathbf{x}) = \begin{bmatrix} 12x_1^2 - 4x_2 + 2 & -4x_1 \\ -4x_1 & 2 \end{bmatrix}$$



# ニュートン法



# ニュートン法



## ニュートン法

- 局所最適解への収束が極めて速い
- ヘッセ行列が常に正定値であることを仮定  
これが満たされない場合  
→ 局所最適解への収束が保証されない
- 初期値が局所最適解に十分近ければ,  
局所最適解への収束が保証される… 局所収束性

# ニュートン法

## 準ニュートン法

- ヘッセ行列を勾配ベクトルなどから逐次近似

## BFGS法

$$B^{(k+1)} = B^{(k)} + \frac{\mathbf{y}^{(k)}\mathbf{y}^{(k)T}}{\mathbf{y}^{(k)T}\mathbf{s}^{(k)}} - \frac{B^{(k)}\mathbf{s}^{(k)}\mathbf{s}^{(k)T}B^{(k)T}}{\mathbf{s}^{(k)T}B^{(k)}\mathbf{s}^{(k)}}$$

$$B^{(0)} = \mathbf{I}, \mathbf{s}^{(k)} = \mathbf{x}^{(k+1)} - \mathbf{x}^{(k)}, \mathbf{y}^{(k)} = \nabla f(\mathbf{x}^{(k+1)}) - \nabla f(\mathbf{x}^{(k)})$$